

どんな業界や職種を志望しましたか

初めからアクチュアリー一本でした。子供の頃から数学が得意で、高校時代からアクチュアリーに興味を抱いていました。他の金融専門職も調べてみましたが、より経営の根幹に携われる可能性を感じたことから、最終的にアクチュアリーを選びました。

アクチュアリーについては独学で勉強し、アクチュアリー試験も大学時代に受けています。アクチュアリーの分野としては、損保のほか、生保、年金にも魅力を感じていたため、就職活動では志望先は特に絞りませんでした。しかし、損保について深く知るにつれ「困難に立ち向かう人を支え、応援する保険である」、「扱った幅が広く多様な領域についての知識が得られる」といった点に魅力を感じるようになりしました。

就職活動はどんなスケジュールでしたか

夏のインターンシップを前に情報収集を始め、2013年8月に損保と生保それぞれ1社ずつサマーインターンシップに参



加しています。三井住友海上のインターンシッププログラムでは、同社の社風と損保アクチュアリーの実務を知ることができました。

12月からは就職活動が本格化。1月から2月にかけて企業が開催したアクチュアリーセミナーにも参加し、仕事についての理解を深めることができました。4月には無事三井住友海上から内々定をいただきました。他に2社からも内々定をいただきましたが、サマーインターンシップでの印象が良かったことに加え、三井住友海上はアクチュアリーに対する社内の評価が高いと感じたことから、入社を決めました。

【就活データ】

- 就活開始：2013年7月
- 就活終了：2014年4月
- 志望業界：保険(アクチュアリー)
- エントリー：17社
- 面接社数：9社
- 内定社数：3社
- 内定先：三井住友海上火災保険株式会社(アクチュアリー)

活動体験談 01 戦略的に活動したことが第一志望との出会いにつながった

慶應義塾大学大学院 理工学研究科 解放環境科学専攻 修士2年 増山 拓生

理系ナビのサービスはいかがでしたか

理系ナビはアクチュアリーに特化していたため、欲しい情報を探しやすく、情報収集に最適でした。また、理系ナビ主催のアクチュアリー関連セミナーにも参加しましたが、どのセミナーも大変有用でした。こうしたセミナーへの参加は、早い段階で自分の実力を知ることができるなど、複数のメリットがあります。なかでも同じ志を持つ仲間に出会えたのは、貴重な体験でした。アクチュアリーの就職活動についての情報は多いとは言えないので、セミナーで出会った仲間とSNSでグループをつくり、採用情報やエントリーシートの締切日程などについて情報交換をしました。就活のライバルでもありますが、一緒に飲みに行くなど、友人としての関係も築くことができました。

就職活動で一番苦労したことは何ですか

自己分析です。エントリーシートを書く直前に自己分析に取り組んでしまったため、短期間で十分には掘り下げられなかったですね。面接では「チームで

何かを成し遂げた経験があるか」などについてたびたび問われますが、自分はサークルに参加していなかったため、過去の記憶から実体験を掘り起こすのに苦労しました。

これから就活に臨む読者へのアドバイスをお願いします

2016年度新卒の学生から就活スケジュールが変わるとのことですので、大学での研究は前倒しでやっておいたほうがよいと思います。なお、アクチュアリーの採用試験に出題される数学試験は、大学一年レベルの代数や微積分がメインで、実際のアクチュアリーの資格試験とは異なります。数学科以外の方であれば、代数や微積分の問題対策にも時間を割いたほうがよいでしょう。また、面接では自分の考えを他人に論理的に伝える能力が必要になるので、トレーニングしておくことを強くお勧めします。就職活動では、何事においても早めの準備が肝心です。私の場合、自己分析は直前になってしまいました。戦略的に活動していたことが、第一志望となった三井住友海上との出会いにつながりました。

志望業界や職種はどのようにして絞りこみましたか

学部生のころにも就活に臨んでいて、メーカー、公務員、官公庁、インフラ系企業、金融業界など、幅広い業界を視野に入れていました。理系ナビでも情報収集をして、金融業界の合同イベントやキャリアスクールにも参加しました。どの企業にも魅力があり迷ったのですが、自己分析を重ねるうちに、「まず大学院に進み、将来は自分が研究した知識をもとに社会貢献したい」と考えるようになりました。大学院ではチュニジアでの乾燥地域の地下水や地表水の循環についての研究に取り組み、国際協力や開発業界、水問題に従事したい気持ちが強まってきました。修士一年の就職活動時には、やりたいことや、それを実現できそうなフィールドをかなり絞ることができていて、開発コンサルテイング、総合商社、今回内定をいただいたJICAにエントリーしました。

就職活動で一番苦労したことは何ですか

スケジュール調整ですね。サマインターンシップに参加し



たかったのですが、学会発表、研究の現地調査、海外研修などが重なり、研究に集中するためにインターンへの参加を断念しました。同様に就活が本格的に始まる12月にもチュニジアでの現地調査がありました。翌年1月に帰国してようやくJICAのOB訪問をすることができ、2月から3月中旬までに複数の企業にエントリーシートを提出。その後、筆記試験や面接を受け、4月に第一志望だったJICAから内定をいただくことができました。帰国した直後は、友人たちと就活の進み具合を比較して焦ることもありましたが、面接担当の方に「研究に集中していた

case

02

理系の就職

自分が信じたことをやり遂げることが大切

筑波大学大学院 生命環境科学研究科 環境科学専攻 修士2年 古川 真理子

【就活データ】

- 就活開始：2014年1月
- 就活終了：2014年4月
- 志望業界：開発援助実施機関、コンサル、商社
- エントリー：13社
- 面接社数：6社
- 内定社数：1社
- 内定先：独立行政法人国際協力機構（JICA）

と正直に話したところ、理解していただき、自分を信じて研究に集中した決断は正しかったと自信を持ってました。日々のスケジュールについては、大学のある茨城と東京間で距離があったため、選考や説明会をなるべく同じ日に設定し、効率よく就活を進められるように調整しました。

内定先を決めたポイントは

比較的早い段階から第一志望はJICAに決めていました。理由は複数ありますが、一つはJICAであれば途上国に直接働きかけることができましたし、他の分野と協力しながら問題解決に挑める点が挙げられます。研究で海外調査に行った際、現地を見ることの大切さを実感し、水問題では、公衆衛生や法律、現地の人々の意識など、隣接する領域同士に深い関わりがあり、分野間の協力が欠かせないと感じていました。

また、公的機関であるJICAは、中長期的にプロジェクトを動かしていくことができるため、その国にとって本当に利益になることができると思ったこ

とも、入社を決めたポイントです。

決定的だったのは、OB訪問や説明会など、面接以外でも社員と直接話ができただことですね。開発途上国への考え方が自分と似ている社員に出会い、価値観を共有できていると感じたことが決め手になりました。

これから就活に臨む読者へのアドバイスをお願いします

就職活動は、将来について考えることができるよい機会です。大学院への進学を予定している方でも、学部生時代に自己分析や業界研究をしておく、進学後のビジョンもおのずと見えてきますし、たとえその時に就職をしなかったとしても、その後の人生に必ず生きてきます。

就職活動のやり方、置かれている環境は人によって異なります。私もそうだったように、研究に時間を割かねばならなかったり、周囲の友人に内定が出たりすると焦るものです。しかしそんな時にも自分を強く持ち、友人や担当教員などの意見を参考にしつつも、信じたことをやり遂げてほしいと思います。